

## 耐えしのご道後温泉

「手塚治虫って松山出身なの？」。愛媛県を代表する観光地、松山市の道後温泉のシンボル・道後温泉本館の前をカップルが歩きながら話していた。「違うんですよ」と呼び止め、次のように説明してあげればよかった。

道後温泉本館は営業しながら2024年末まで保存修理工事中。その工事自体を観光資源にしようと、松山市は漫画家の故手塚治虫氏の漫画「火の鳥」とのコラボレーションを展開している。建物を覆う工事用の素屋根にラッピングアートで巨大な火の鳥を描いた。温泉ゆかりの人物や火の鳥が登場するオリジナルアニメを制作して本館そばで上映したり、プロジェクションマッピング（映像投影）を実施したり。日本最古の湯といわれる歴史ある温泉と、時空を超えた存在の火の鳥を重ねて、工事後に生まれ変わるというメッセージを込める。

こうした取り組みで観光客をつなぎ止めていたところにコロナ禍。道後温泉（本館など市有3施設）は6月18日まで約2カ月休館。周辺の旅館・ホテル、商店街も多くが臨時休業し、周辺はひっそりしていた。道後温泉旅館協同組合によると、加盟する旅館・ホテルの宿泊者数は、6月が前年同月比12%と低迷。7月は60%、8月は65%とやや持ち直した。政府の観光支援事業「Go To トラベル」や愛媛県の宿泊割引サービスなどを利用して来ているが、団体客が少ない。組合はコロナ対策として、各宿泊施設に1人以上の感染予防責任者を置き、7月から月1回、責任者の講習会を開いて施設従業員への情報還元を図るなど取り組みを強化。道後商店街振興組合も、店舗への消毒液設置などを定めた「10か条」をつくり、商店街で毎日放送して安全をアピールしている。ここに来て「Go To」の対象に10月1日から東京都が追加される見込みとなり、関係者は期待を寄せる。

ウイズコロナ時代というが、道後に限らず既存の観光地は耐えしのいでいる状況だろう。松山市道後温泉事務所は「3密対策をきちんとし、まず近場の人に来ていただく。そして安全、安心な道後温泉を浸透させていく」と堅実路線を歩む。オンラインで見物はできても、観光の醍醐味は、やはり現地で直接見聞きし味わい、感じることだ。来年は松山市出身の俳人正岡子規の没後120年祭の年であり、道後地区にはオープン40周年を迎える子規記念博物館もある。子規と道後温泉はゆかりが深い。文学的な盛り上がり観光はコラボできないだろうか。「十年の汗を道後の温泉（ゆ）に洗へ」（子規）とばかりに、観光客を呼び込みたいところだ。

愛媛新聞社 営業局次長兼営業開発部長 神田未知生



道後温泉本館の保存修理工事で、素屋根に描かれた「火の鳥」



プロジェクションマッピングで青く照らし出された道後温泉本館